

資料1 防犯 DIG のシナリオ例

防犯 DIG < 不審者への対応 > シナリオ

テーマ	内容	画面
DIG とは？	<p>DIG (ディグ) は、参加者が地図を使って防災対策を検討する図上訓練です。</p> <p>DIG という単語は、Disaster (災害)、Imagination (想像力)、Game (ゲーム) の頭文字を取っており、別に「掘る」、「探求する」という意味を持つ英語の動詞でもあります。「防犯 DIG」はこの図上訓練を「防犯」に応用したワークショップの手法です。</p> <p>防犯 DIG は、参加者が大きな地図を囲み、みんなで書き込みを加えながら、楽しく議論を進めていきます。その中で参加者は、地域に起こるかもしれない犯罪を、より身近なものとしてとらえることができるでしょう。比較的簡単な準備と安価な経費で気軽に取り組むことができるのも魅力です。</p> <p>キーワードは「人を知り、まちを知り、犯罪を知る」です。初めて参加した者同士のコミュニケーションから、地域の情報を共有し、自分達の住むまちでの安全・安心について理解を深めていきます。</p>	<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>
DIG のルール	<p>DIG には堅苦しい決まりのようなものはありません。楽しく、自由にかつ活発に意見を交換できる雰囲気をお互いにつくるよう意識することがルールとも言えます。その意味で相手の意見をまず聞くということが大切です。そして、ただ傍観者とならず、また人の意見を非難したり否定したりせず、どんどん新たな意見を延べましょう。</p>	<p>4</p>
図上訓練 (DIG) を始める前に	<p>楽しみながらざっくばらんに意見を出し合うことが DIG の重要なポイントです。初めて顔を合わせる参加者も多いことから、DIG を始める前に発言しやすい雰囲気づくりをすることが必要です。各班の参加者同士で自己紹介をしてください。また、議論をスムーズに進めるため、進行役である「リーダー」と、出された意見を記録する「書記」を決めましょう。</p> <p>最後に皆さんの意見を発表していただきますので、リーダーを中心に活発に意見を交換しましょう。</p>	<p>5</p>
DIG の進め方	<p>具体的な事例を想定して皆さんで議論を進めていきます。自分自身の防犯意識や、どんな対策があるかが議論の過程で明らかになってきます。</p>	<p>6</p>

テーマ	内 容	画面
地域情報の確認	<p>まず、自分達の住むまちを確認してみましょう。地図上に近所の安全情報・危険情報を地図に書き込み、シールを貼ってみます。 (20分)</p> <p>○安全情報 コンビニ・商店・スーパー・病院・警察・駅・学校・公民館・こども110番の家・避難場所・公衆電話 など</p> <p>○危険情報 幹線道路・生活道路・歩道・公園・死角・過去の事件現場 など</p>	7
課題 1 不審者を近づけないまちづくり	<p>犯罪者が狙いやすいまちは、地域コミュニティの希薄なまちといわれています。犯罪から家族や地域を守るには、地域に住むお互いが防犯意識を高め、地域みんなで安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組むことが大切です。</p> <p>不審者が寄り付きやすいまちとは？ (15分)</p> <p>※詳しくは説明せずヒントを提示する程度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゴミが散乱している ○ 壁や塀などに落書きが多い ○ ゴミ出しのルールが守られていない ○ 街灯が少なく、暗がりが多い ○ 近所付き合いが希薄で周囲にも無関心 ○ 放置自転車が多い ○ 違法駐車が多い 	8 9
課題2 住民同士でできる防犯対策は？	<p>防犯対策で最も大切なことは、自分の身や家族、財産を守るといって強い気持ちを持つことです。不審者をまちに寄せ付けなくするために有効なのは、隣近所同士のコミュニケーションを図ることです。日頃から近所であいさつをしていけば、お互いの連帯感が深まり、不審者の姿や物音にも気が付きやすくなります。</p> <p>犯罪の情報は地域で共有しましょう 不審者は同じ地区で犯行を繰り返す傾向があります。近隣で犯罪が発生したら、具体的な情報を回覧板などで共有し、再発を防ぎましょう。</p> <p>暗がりをなくす 不審者は暗がりを好みます。痴漢やひったくりなどの街頭犯罪がよく発生する暗い道には、自治会や町内会と協力して防犯灯を設置しましょう。防犯灯の設置が難しい場合はその沿道住民と話し合っ て門灯の利用を検討してみましょう。一晩中門灯をつけておいても電気代は月に300円程度です。</p>	10

テーマ	内容	画面
<p>課題2 住民同士でできる防犯対策は？</p>	<p>家の見通しをよくする 高い塀や壁は不審者の身を隠す場所や犯行に利用されます。隣家との家の敷地の境界にあるブロック塀なども泥棒の足場や逃げ道になります。隣家と相談してみて、可能なら取り除いて見通しを良くしておきましょう。</p> <p>公園の死角をなくす 空き地や公園も下見や隠れ場所に利用されます。維持・管理について地域で話し合い、雑草や樹木が見通しを妨げないような工夫が必要です。</p> <p>自分の子ども以外にも注意を払う 子どもを犯罪から守るには地域ぐるみの取組みが大事です。自分の子ども以外にも注意を払い、安全な通学路を確保しましょう。</p> <p>子どもへの声かけ 暗くなるまで遊んでいる子どもを見かけたら早く帰るようにひと声かけてあげましょう。</p> <p>不審者への声かけ 子どもが遊んでいる付近をうろついたり、不自然に子どもを連れてくる不審者を見かけたときは、臆せずに「ひと声」かけましょう。また、知らない人が自分達の住む町を歩いていたら「こんにちは、どなたの家をお探ですか？」などと声を掛けてみましょう。</p> <p>駆け込み場所の設置 子どもの安全が地域の人々によって守られるよう、「子ども110番の家」を設置し、すぐに子どもが助けを求められるよう普段から設置場所の確認をしておきましょう。</p> <p>子どもと接触する人物に注意する 年齢が上がるほど行動範囲や交際範囲が広がるので、親はよく知らないけれど、子どもたちにとっては顔見知りという大人が出てくる場合もあります。子どもと接触する人物には絶えず関心をもち、チェックしておきましょう。「顔見知りタイプ」の変質者もいるので、気をつけましょう。</p>	<p>10 11</p>
<p>防犯パトロール</p>	<p>防犯パトロールは地域での安全・安心を確保する最も有効な方法のひとつです。 登下校時の通学路パトロールなど「防犯ボランティア」としての活動に参加し、不審者を近づけないようにしましょう。また、パトロールで得た危険情報を早く地域に伝え、日頃から地域の連携を密にしておくことが「安全対策がきちんととられている地域」をアピールすることになり、不審者が入りこみにくくなります。</p>	<p>11</p>

テーマ	内容	画面
防犯パトロール	<p>防犯パトロールの主なチェックポイントは次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路 ・夜暗いところ ・死角になっているところ ・不良少年の溜まり場(コンビニの駐車場など) ・水難事故、公園の遊具 ・空き家、空き地 ・ゴミの不法投棄 ・違法駐車、放置自転車 ・「子ども110番の家」 	12
まとめ	<p>本日話し合ったことを元にみんなでまちを歩き、点検した内容を整理して改めて安全マップをつくり、防犯の計画や提案をまとめてみましょう。その内容を踏まえて「すぐに改善できること」、「長期的に取り組むこと」を話し合い、自分たちでできることをみんなで考えてみましょう。</p>	13